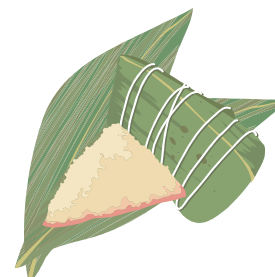


ほほえみ 第42号



桜が開花してから、暖かい日が続き、お花見日和でしたが、皆様、今年の桜は楽しめましたでしょうか。我が家では、今年も盛岡城跡でお花見をしてきましたが、大変な人出でした。丁度、信号を渡ろうとしていた時に、家内が迷子を発見し、本部に送り届けて放送してもらったのですが、子供の足でも大人の予想のつかないくらい遠くまで来てしまっていたようで、大人が手分けしても見つからなかったようでした。今日は、迷子が多いとスタッフの方も言われていました。結局は、お母さんに引き渡すことができたのですが、あの雑踏の中で迷子になったら、大人のほうは、生きた心地がしないですね。

味覚障害について

化学療法の副作用に関して、味覚障害というものがあります。味覚障害と一口にいても、様々な種類があると考えられており、

- ① 味覚減退:「味が薄くなった, 味を感じにくい」
- ② 味覚消失・無味症:「全く味がしない」
- ③ 解離性味覚障害:「甘みだけがわからない」
- ④ 異味症・錯味症:「しょう油が苦く感じる」
- ⑤ 悪味症:「何を食べても嫌な味になる」
- ⑥ 味覚過敏:「味が濃く感じる」
- ⑦ 自発性異常味覚:「口の中に何も無いのに苦みや渋みを感じる」
- ⑧ 片側性味覚障害:一側のみ味覚障害



というように、分類されています。この中で、化学療法中に起こりやすいのは、①の味覚減退、④の異味症・錯味症、⑦の自発性異常味覚などと言われています。抗がん剤としては、5-FU系、プラチナ系、タキサン系の薬剤や、アントラサイクリン、ピンカルカロイド、メントレキセートなど多岐にわたります。

なかなか、すぐには改善しない副作用の一つであり、休薬しても月単位(二か月程度)、回復にかかると言われていています。予防することは難しいのですが、アントラサイクリンや、ピンカルカロイドなどでは、亜鉛の補充を行ったりします。当科でよく用いられる、5-FU系やプラチナ系の薬剤に関しては、特効的な治療がなかなか見当たらないのが悩ましいところ です。

特に、5-FU系の薬剤に関しては、女性のほうが症状が出やすいという論文もあります。化学療法自体を中止することが難しい場合も多々ありますので、食べやすいもの、味付け、固さを工夫したり、粘膜障害を背景にするような場合には、適切な口腔内ケアも必要になってきます。

日常生活に密接に関わる副作用の一つで、薬を飲めば治るといったようなものではないところが、難しいのですが、食べやすいものや味付け、口腔内ケアなど、その方の症状をみながら、工夫を要するものでもあるので、ご相談いただければと存じます。



味覚減退には、出汁をきかせたり、酸味を使ったりするのも、良いと言われています。

高岡 御車山祭りについて

私の郷里、高岡市では5月1日に御車山祭りというものがあり、市内を、絢爛豪華な山車が巡行します。

豊臣秀吉が、聚楽第に後陽成天皇と正親町上皇をお迎えしたときに用いた御所車を、前田利家がもらいうけて、さらに高岡の開城の際に、この地に移ってきた町人に下げ渡したというもので、桃山的というか、大変派手ですね。



高岡御車山保存会公式サイトより

5月1日は、市の祝日なので、小学校なども半日となり、お祭りに出かけることになっています。実家の前は通りませんが、すぐ近くの高岡大仏の辺りまで巡行するので、必ず見に行ったものです。残念ながらゴールデン・ウィークでもないという日なので、随分、見ない年が続いています。各地に山車が練り歩くようなお祭りはあるのですが、個人的には、山車というものの原点が、御車山なので、あの長閑なお祭りを懐かしく感じますね。

今年の家庭菜園

今年も、家庭菜園の季節となりました。場所は少し変更になったのですが、畑を借りることができました。早速、苦土石灰をまいて準備を始めることとしました。何も植えない前の畑は、荒地でもなく、むしろ、こういう表現はおかしいのですが、火星の表面のようにも思えます。

今年は、まだ育てたことのない「ズッキーニ」に挑戦したいというのが、とりあえずの目標です。去年は、不調だったトウモロコシも今年は収穫したいと思っています。

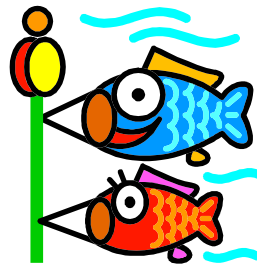
畑から帰ろうとすると、あぜ道に、つくしが出ていました。のどかな感じがして、たまに畑を見に行く楽しみは、作物の成長だけではないですね。



MEMO

5月のがん化学療法科の予定

5月5日	子供の日
5月6日	振替休日
5月9日	柴田教授外来
5月16日	新渡戸稲造記念メディカル・カフェ
5月23日	柴田教授外来



今年の、ゴールデン・ウィークはどんな天気になるのでしょうか？